

子供と学級通信の掲載内容及び掲載方法の関係についての研究

—子供の自尊感情の変動性と学級担任の主観で捉える子供との関連を通して—

所属校：狛江市立狛江第五小学校
氏名：寺本英雄
派遣先：創価大学教職大学院

キーワード：学級通信・掲載内容・掲載方法・自尊感情・変動性・関わり合い・学級経営・受信・発信

I 研究の目的

本研究の目的は、自分自身が学級経営及び子供理解の手立ての一つとして活用してきた「学級通信」が「子供の自尊感情の変動性」及び「学級担任の主観で捉える子供」とどのように関連しているのかを分析、考察し、「子供と学級通信の掲載内容及び掲載方法の関係」を明らかにすることである。

II 研究の方法

- 「学級経営及び子供理解」について、文科省や東京都教育委員会等から出された資料から考察する。
- 「自尊感情の捉え方」について、先行研究や資料及び「自尊感情測定尺度（自己評価シート）」のアンケート結果と関連させて、分析、考察する。
- ※東京都教育委員会「自尊感情や自己肯定感に関する研究」活用
- 「学級通信の意義」について、先行研究や資料から考察する。
- 「学級通信の掲載方法及び掲載内容」を実際に発行された学級通信を分析し、分類する。
- 「子供と学級通信の掲載内容及び掲載方法の関係」について「仮説」を立てる。
- 「学級担任の主観で捉える子供と学級通信の関係」について、学級担任の主観で捉える子供と実際に発行された学級通信との関連を分析、考察する。
- 「子供の自尊感情の変動性と学級通信の関係」について、「自尊感情測定尺度（自己評価シート）」のアンケート結果と実際に発行された学級通信との関連を分析、考察する。
- 「子供と学級通信の掲載内容及び掲載方法の関係」についてまとめる。

III 研究の経過及び結果

1 自尊感情測定尺度と実施結果の分析

「自尊感情測定尺度（自己評価シート）」を実際実施、分析した結果から、次のようなことが示唆された。

- ・5学級148名の「自尊感情測定尺度（自己評価シート）」アンケートの結果と学級担任の主観で捉える子供を比較したが、一致する子供もいるが一致しない子供も存在した。これは子供の自己評価と学級担任の主観で捉える子供像とが一致しないこともあ

るということだけではなく、自分が伸びるために厳しい評価をする子供であれば、自分に甘く高い評価をする子供がいるように、子供の自己評価方法にばらつきがあるということでもある。しかし、担任の主観と一致しないからと言って不正確というわけではなく、子供の内面を捉えた結果だと捉え、新たな視点として参考にすることができると言える。

よって、自尊感情の測定結果は、他者との比較よりも、各々の個人の結果に目を向けることが必要ではないかと考えられる。

- ・3学級87名の児童に対して、「自尊感情測定尺度（自己評価シート）」アンケートを1人2回、約3ヶ月の調査間隔を空けて実施したが、すべての子供の結果に変化が見られたことから、自尊感情は、固定的なものではなく、変動的なものだと考えられる。

よって、ある時点での自尊感情の測定結果だけを見るのではなく、変化（揺れ・変動・安定及び不安定）に目を向けることが必要ではないかと考えられる。

2 学級通信の意義について

子供にとって、学級通信に記事として掲載されるということは、学級のメンバーや保護者が読むことを前提とした表現であり、発信である。山元らは、発信すること、表現することについて「発信には必ずそれを受けとめる相手が必要であり、他者を意識せざるを得ない。また、発信することで返ってくる他者の反応から学ぶこともできる。また、表現することは、他者に自分の思いを伝えるとともに自分の考えを自分自身に問いかけ、確かめることができる。」と述べている。

また、内田も、表現した内容を発表（学級通信をクラスで読み合わせ）する活動について、「日記や作文をクラスで発表することで、表現の道具にとどまらず、コミュニケーションや内省の手段として生かされ、他者との相互関係が明確に反映されるものとなり、人間の認識と感情を知る貴重な資料となる。」と述べている。

さらに、「書く過程は、あることを伝えるという目標に向かって、自分が伝えたいことと表現のズレを調整し、最も適切な表現を作り出すという目標指向的な一種の問題解決過程であることがわかる。また、文章を書く前には気づかなかったことに気づく発見的な過程といってよい。」とも述べている。

学級通信の機能は、保護者への通信という機能にとどまらず、書く、発表する、発信することを通して、他者を意識し、自分自身を再発見させることができる機能を有していると考えられる。

そこで、先行研究にまとめられている学級通信の意義やあり方等についてまとめていくこととする。まず、学級通信の意義として、吉川は、岩上・吉成が掲げる8つを挙げ、「保護者との交流・連携に関すること、児童の成長に関すること、教師としての向上に関すること」の3つの視点にまとめている。

大日方は、学級通信の役割を、吉川の1つ目の「保護者との交流・連携」にあたる視点である「保護者たちの“不満・不振・不安”を、“信頼・安心”へと転化しうる教師と保護者の公共的な対話の回路でなければならない。」と提示している。

また、大河原や荊間ら及び村松らは共に、吉川の2つ目の「児童の成長」にあたる視点である、学級通信記事におけるメッセージについて、教師の欲求と感情、考えを素直に伝え、教師の問題が解決する方向に向かって開かれた「わたしメッセージ」が子供により効果を与えることや学級通信で学級担任が伝えようとしたメッセージを、KJ法を活用して10個のカテゴリーに分類し、提示している。小畔も同様に「児童の成長」に視点を当て、学級通信上において、子供が自己開示をすることが学級成員の親密性を高めることを示唆している。

更科の視点は複合的ではあるが、主に、吉川の3つ目の「教師としての向上」に視点を当て、学級通信を発行する理由として「50分のLHR(学活)の形がとりやすい、必要な事務連絡を確実に伝えられる、欠席者に指導しやすい、クラスの生徒全員に毎日声をかけるのは難しいので紙上でおとなしい子や頑張った子にスポットを当てられる、家庭で親子の会話のきっかけにしよう。」の5つを挙げている。

私はこれらの意義と共に「学級通信における関わり合い」を大切な視点としてきた。

3 学級担任の主観で捉える学級及び子供と学級通信の関係

学級担任の主観で捉える子供と学級通信（筆者、先輩及び後輩教師が発行した学級通信、延べにして約4000号分）の関係を分析、比較、考察をおこない、次のような結果を得た。

ただし、筆者が分析した内の1割（約400号分）に関しては、教師歴10年以上の2人に、200号ずつ分析を依頼し、筆者の分析結果と照合させ、筆者の分析と筆者以外の分析とがほぼ一致することを確認した。

- ・安定した学級では児童同士の関わり合いを表現した内容が多数掲載されている。
- ・成長した子供は、周りの児童から関わりを表現されたり（受信）、周りの児童との関わりを表現したり

（発信）する内容の両方が掲載されている。

- ・子供の表現をそのまま（コピーして）紹介する掲載方法が効果的である。
- ・子供の成長に影響を与えるためには、少なくとも週に2回程度以上の学級通信の発行が必要である。
- ・今回の結果は、小学校第2学年から第6学年において検証された。

4 子供の自尊感情の変動性と学級通信の関係

「自尊感情測定尺度（自己評価シート）」のアンケート結果と学級通信の関係を調査、分析、比較、考察をおこない、次のような結果を得た。対象学級は以下の通り。

- ・都内小学校第6学年A学級（34名）、分析学級通信37号分
- ・都内小学校第5学年B学級（26名）、分析学級通信24号分
- ・都内小学校第5学年C学級（27名）、分析学級通信65号分

（1）自尊感情「安定群」と学級通信の掲載記事との関係

関わりを表現されたり（受信）、自ら関わりを表現したり（発信）する内容の記事が、両方とも掲載されている。また、その掲載記事において、受信及び発信共に、自分及び相手に対してマイナスの要素を含む内容の記事は掲載されていない。

（2）自尊感情「不安定群」と学級通信の掲載記事との関係

自ら関わりを表現（発信）する内容の記事が掲載されていない。もしくは、関わりを表現されたり（受信）、自ら関わりを表現したり（発信）する内容の記事が両方とも掲載されている場合は、自分や相手に対してマイナスの要素を含む内容の記事を受信（もしくは・及び）発信をしている。

（3）自尊感情「変動中間群」と学級通信の掲載記事との関係

関係は不規則で、対になる関係は見いだすことはできない。

IV 研究の考察

学級通信において、子供の表現をそのまま（コピーして）紹介する掲載方法を活用し、関わりを表現されたり（受信）、自ら関わりを表現したり（発信）する内容を両方とも、学級通信に掲載することが、子供の自尊感情の安定及び学級担任が主観で捉える子供の成長に影響を及ぼしているということが明らかになった。

これらのことを意識して、学級通信を構成し、発行していくことで、子供に好影響を与えていけると考えられる。